

平成30年度 第2回藤沢型地域包括ケアシステム推進会議 議事要旨

I. 開催概要

1. 開催日時 2018年(平成30年度)8月22日(水)午後4時30～7時

2. 開催場所 藤沢市本庁舎7階 7-1・7-2会議室

3. 出席者

(1) 委員=23人

小林 邦芳, 木原 明子, 大島 崇弘, 吉田 展章, 齊藤 祐二,
島村 孝子, 児玉 文卿, 栃本 親, 澁谷 晴子, 菅原 健介,
川村 哲, 稲生 純也, 北島 令司, 市川 勤, 田場川善雄,
伊豆丸弥生, 黒木 俊治, 秋山 美紀, 竹村 裕幸, 西山 千秋,
和田真知子, 伊原 敦, 片山 睦彦

(2) 事務局=21人

地域包括ケアシステム推進室 平井(室長), 三ツ井(主幹), 新井(主幹), 内田(主幹),
齊藤(室長補佐), 越川(室長補佐), 小鈴(室長補佐), 一瀬(主査),
糊澤(担当), 小野(担当)

福祉健康総務課 蓑原(参事), 江添(主幹)

介護保険課 寺田(参事), 猪俣(主幹)

障がい福祉課 安孫子(参事)

市民自治推進課 宮原(参事)

子育て企画課

教育総務課 佐藤(参事)

藤沢市社会福祉協議会 倉持(参与), 村上(次長), 樋口(主幹・CSW), 垣見(生活支援
コーディネーター)

(3) 傍聴者= 1人

4. 議題等

1 開会

2 議題

(1) 推進会議の今後の進め方について

(2) 『地域包括ケアシステム』と『藤沢型地域包括ケアシステム』について

(3) 重点テーマごとの分科会における検討状況について

(4) 第3回推進会議における議事等の確認について

(5) その他

3 閉会

II. 会議の概要（議事要旨）

1 開 会

2 議 題

（1）推進会議の今後の進め方について

質疑なし

（2）『地域包括ケアシステム』と『藤沢型地域包括ケアシステム』について

質疑なし

（3）重点テーマごとの分科会における検討状況について

〈①重点テーマの①から③まで資料2～6により説明〉

委員：片山委員の説明で地域の活動が先に行っているといった話がありましたが、地域は先見の明があったわけではなく、地域でその時々必要なことに対応するために行った結果の積み重ねが現在の取組につながっています。こういった地域の取組を後から藤沢型の中で整理されてしまうことに若干の違和感があります。行政と地域の温度差を感じています。

代表：地域の取組ということで、伊原委員から何かありますか。

委員：地域の取組は藤沢型を目指すために始めたわけではないですし、元々やっていたことに対して急に藤沢型の話をされることに対する唐突感は私も感じます。ただ、藤沢型が目指すところと、それぞれの従来からの活動が一致している、素晴らしいことだ、と考えてよいと思います。地域の方が感じている課題をこの場で共有して、うまく協働できればいいと思います。

委員：分科会の取り組みについて説明いただきましたが、進捗状況として各地区に協議体がありますということですが、片瀬と湘南大庭の冊子のような立派なものみたいに、各地区でこのようなものにまとめていくのでしょうか。

委員：協議体で話し合っ、地域に必要なだということで作成したものですので、地区ごとにこういったものを作るところもありますし、居場所づくりに進むところもあります。それぞれ行政主導ではなく、地域主体で取り組みを進めていただいています。

委員：もう1点、健康マップについてですが、どのようなデータを記載するのでしょうか。

事務局：他市の取組ですが、介護度の重度化を防止を図るため、地区ごとの健康に関するデータを集め、それぞれの地区に住む人に気を遣っていただきたい点をまとめた資料が作られています。こういったものを、藤沢の13地区版で作りたいて考えています。地区ごとのデータ・状況はなかなか出しづらいものもありますが、地域ごとに作成することで、身近な、我が事として感じてもらうことができ、より自助につながるのではと考えています。

委員：片瀬や湘南大庭の冊子はどこに配るのでしょうか。

委員：私からお答えします。片山委員の話は非常にわかりやすく、心強さを感じました。湘南大庭では、いろんところでコミュニティづくりをすすめているので、活動の見える化をすることで、より活動に広がりを見せられるのではないかと感じています。周知についてはまだなかなかできていませんが、自治会等に縛られず、多くの方に見てもらえるような工夫、例えば公共施設への配架等、を行っています。

委員：地域活動というのは我々とするボランティア等をすぐに思いついてしまいますが、湘南大庭の資料はゲートボールなどの取り組みなど、もっと幅広い視野で記載されていて非常によいと感じました。

委員：湘南大庭に住んでいます。この地区では自治会の中でいろいろ考えていて、企業と自治会が連携して取り組みをしていたりする。例えば若い人に自治会活動に参加してもらえるようなパンフレットの作成などです。

この会議についてですが、藤沢型の広報のための会議なののでしょうか。藤沢型をどう進めていくか、を考えるものだとすれば、時間的に足りず検討しづらい面がありますので、何かやり方を考える必要があると思います。

藤沢型もそうですけれど、何か新しい取り組みをすると反対も必ずあるものですから、それについてこの場で意見・情報交換できれば非常に助かります。

《②重点テーマ④から⑥まで資料2を用いて説明》

委員：この情報をどこで調べればいいのかを教えてくださいたいと思います。まずは県の保健医療計画について県で調べられますか。また食糧支援についてどこで情報を得ることができますか。

事務局：食糧支援は情報があまりオープンにしているものではありませんが、簡単に説明しますと、現在は東京のNPOに食糧支援をお願いしています。ただ、今まで無料で使えていたものが、負担金が必要になるためこれに代わる方法を考えていきたいと思っています。

委員：医療的ケア児について意見です。現在は高齢期に対する支援が中心になっていて、なかなか障がいの当事者の方からの意見が聞き取る場が少ないと感じているので、そういった機会を増やしていただけるといいと思います。

委員：前回もお話しましたが、この場で何を話していいのかが難しいと感じています。分科会の説明を非常に詳しくしていただいて、お話したいこともたくさんありますが、限られた時間で、何について、どこまでの話をすればよいのでしょうか。

委員：事前資料で提供いただいているのですが、分科会の取り組みの説明は報告になってしまいます。分科会から委員に対し投げかけがあるといいと意見も言いやすいと思います。全体を知るのは重要ですが、時間的な面も考慮して、例えば専門部会を絞るなど、論点を絞ってもいいのではないのでしょうか。

事務局：今回はかなりのボリュームでの報告となりました。もう少し工夫して、例えばテーマを絞った説明等が必要だと考えています。

委員：この会議の進め方について、前回の資料を見ると構成課等の記載があり見返してみました。例えば社会的孤立の防止については、対象を絞って進めていただければよいかな、と思います。また、移動支援について、長後の郷土づくりで検討しています。初めに、地域の困りごとについてアンケートをとり、一番意見が多かったのが移動についてでした。そこで移動支援の検討を進めているところですが、さらに突き詰めると、高齢者のニーズよりも若者・学生の

ニーズのほうが多かったことに非常に驚きました。この結果を踏まえ、現在の郷土づくりの検討を考え直さなければと考えています。そもそも藤沢市は説明にあったとおり交通網が充実していますし、移動支援の必要性についても、丁寧には考え直さなければいけない部分もあるかと思っています。

また見守りについて、長後ではヤクルトの方などに協力してもらって、見守りネットワークという形で取り組んでいる。各地区でも様々な取り組みを進めていると感じていますが、日常的な気づきの中で見守ることが重要であり、長後では十分機能していると感じている。しかし、防災無線等で流れているのを聞くと、なかなか進んでいないのかなと感じることもあります。

(4) 第3回推進会議における議事等の確認について

委員：こども110番について、機能しているか疑問です。空き家に看板もあることもあります。非常に重要な取り組みのため、市全体でもっと考えて、見直しができればよいのではないのでしょうか。

また、子どもが活動する時間がより朝早くから夜遅くになっていますので、早い時間、遅い時間だと駆け込めないところが多いです。しかし、コンビニであれば24時間対応できますので、連携を検討してもらいたいです。

あと、5時の音楽が流れていますが、例えば音楽の後に、帰ることを促すような言葉を一言付け加えるなどできるとよいと思います。

委員：長後ではこども110番が機能していると思っています。地区によって状況が違うのではないかと思います。

委員：鵜沼地区では、看板を全面的に見直し、利用しやすくしました。現状どの程度機能しているかは正直分かりませんが、地図に落とし込んでいくような作業を行っています。

委員：障がいの相談体制の見直しを現在行っています。民生委員にも協力してもらっていますが、相談箇所が少ないため、どうしたら機能する体制になるかを是非お伺いしたい。次回に案を提示するので、それぞれの立場から意見をもらえればありがたいです。

委員：分科会で様々な取り組みをしているというのは分かったが、報告以外の課題も多くあると感じています。よりニーズにこたえるために、どうやって

地域とつながるかといったことが根底にあるのではと考えておりますので、会議の仕立てを検討してほしいと思います。

委員：どうしたら住民の方に、我が事・丸ごとを考えてもらえるのかを検討していければいいと思います。極端な話ですが、藤沢市の職員は全て包括ケアシステム推進室、住民はみんな福祉人材、くらい言ってしまってもいいのではないのでしょうか。地域の支えあいを推進して介護保険を利用しなくても生活できるような地域、などのコンセプトを打ち出してもよいと思います。

委員：テーマについて、前回認知症の話がありましたが、その後の経過を教えてくださいいただければと思います。

事務局：前は事務局からの提案をしましたが、委員の方から意見を伺った中で、事務局主導ではなく、委員の皆様から頂いた意見に基づきテーマ設定をするほうが良いと考え、このような形で進めています。

委員：認知症についてもオレンジプランを作ることは決まっていると思いますので、この場でも意見をきいていただければと思います。

事務局：オレンジプランについて現状の補足ですが、認知症は高齢者の計画に位置付けられておりますので、プランにとらわれず、地域で行われている活動の紹介や、行政としての今後の取り組みの方向性など、アクションを考えるものにしていきたいと考えております。

委員：認知症については、前回の会議のお話にもありましたとおり、高齢者だけの問題ではありませんので、この会議の場でも検討することをお願いいたします。

代表：様々な提案がありますので、この場だけでなく事務局に連絡いただければと思います。ただし、これだけの意見をすべて反映させるのは難しいと思うので、そのあたりはご理解いただきたいと思います。

事務局：皆様から様々な意見をいただきました。どのような形で進めていくか、また、様々なテーマについてどのように扱うかについて、意見をいただいた方に事務局より連絡させていただき詳しい内容や、ご提案いただいた経緯等を確認させていただければと思います。すべてを議題にすることは難しいと思うが、

できるだけ議題に反映させていきたいと考えております。

(5) その他

委員：会議は2時間で予定されているため、これだけ超過するのであれば事前に連絡いただければありがたいです。3時間かかるような議事であれば、最初から3時間会議として設定するなどしていただければと思います。

事務局：今回は事務局からお話する分量が多く申し訳ありませんでした。今後はできるだけ簡素化していきたいと思えます。また、時間について例えば今後は2時間半にさせていただくのはどうでしょうか。

代表：委員の集中力もそれ以上長いともちませんので、最大2時間が限度かと思えます。

事務局：それでは、次回以降は工夫をし、2時間以内に収めるようにしていきたいと思えます。チラシ等については、時間の都合上説明は省略しますが、お時間があるときにお目通しください。

代表：議題は以上です。マイクを事務局に返します。

3 閉 会

◆事務局より閉会のあいさつを行った。